

第3章 2022年度事業計画

目次

概要	42
1 活動計画	42
2 会議・会合	44
3 粉体工業展	45
4 常置委員会	45
5 分科会	50
6 粉体工業技術センター	57
7 技術情報交流懇話会	58
8 共催・協賛及び後援行事	58
9 刊行物	59

第3章 2022 年度事業計画

自 2022 年 4 月 1 日

至 2023 年 3 月 31 日

概要

わが国の景気は、コロナ危機からの経済活動の正常化や、カーボンニュートラルや DX(デジタルトランスフォーメーション)への対応が進むことから、当初回復の兆しも予想されました。しかしながら、コロナ禍前から続く日本経済の成長期待の低さに加えて、ウクライナ情勢の今後の展開の不確実性が強く、エネルギー価格の上昇などを背景に、企業の 2022 年度設備投資計画は、力強い伸びは期待できず、投資計画値が下振れしていく可能性があります。

このような状況下、当協会では「2019～2021 年度 第 2 期 中期運営計画」に続き、「第 3 期 中期運営計画(2022～2024 年度)」を策定し、新たに以下の重点活動目標を掲げました。

1. 分科会活動の活性化
2. 新しい展示会の展開
3. 広報の改革
4. 国際化の推進
5. 組織の強化

本年度は第 3 期中期運営計画の初年度として、これらの目標を基本にした活動を行い、当協会の目的である「粉体に関する鉱工業技術開発および普及を通じて粉体関連工業の発展を図り、もってわが国経済の健全な発展と国民生活の向上に寄与する」ことを目指しています。

1. 活動計画

1-1 調査・研究事業(分科会、分科会運営、技術)

21 の分科会が、それぞれに掲げた中期活動テーマを基に、2022 年度の活動を展開します。今年度の活動も、感染対策を施したうえで、「オンサイト」や「Web」、「ハイブリッド」方式で開催される予定です。分科会運営委員会は、各分科会が産業界に貢献できるよう、また分科会が将来に向かって順調に発展できるような体制づくりを行い、分科会活動の積極的な推進を支援します。

技術委員会関連では、AI 技術利用委員会が昨年度設立されましたが、粉体プロセスへの活用などの議論を今後も行い、収集された情報は、委員会および国際粉体工業展の「AI 技術利用セミナー」などで公開していきます。また、AI 実習講座を開催して、協会に AI をはじめとする技術を浸透させ、会員企業への導入促進を図ります。

1-2 広報・普及事業(総務、「粉体技術」誌編集、産学官連携)

(1) 技術情報の発信

「粉体技術」は創刊以来、「粉体関連産業の総合情報誌」を常に意識した上で、さまざまな側面から改善を重ねており今後も継続していく予定です。内容は粉体技術の最新動向に重点を置くが、協会会員に加えて会員外読者、企業関係者の方々にも有益となる特集企画も展開します。それぞれを年 12 回の中でバランスよく配分し、読者増につながる誌面づくりを行う予定です。

昨年度はホームページ(日本語版)の全面リニューアルを実施しましたが、今年度も引き続きホームページ(日本語版)の改善を行うとともに、英語版のリニューアルも予定しています。また、メールマガジンの再構築を進める予定です。

(2) 産学官連携

国際粉体工業展東京2022の併催行事として、大学や公的研究機関と連携し、粉体工学入門セミナー、粉体機器ガイダンス、最新情報フォーラム、テクノプラザを開催する予定としています。また、粉体に関する若手研究者の研究奨励、関連企業への情報提供および産学連携の基盤づくりを目的に、「アカデミックコーナー」を設置します。さらに「技術相談コーナー」を開設し、大学や公的研究機関の研究者が企業からの技術相談に応じます。

産学技術交流推進部門では、常時ホームページ上で協会内外からの粉体技術に関する相談を受付けており、企業からの問合せを大学や研究機関へ橋渡しする役目を果たしていきます。

(3) 粉体技術総覧 2022/2023 の発行

国際粉体工業展東京2022に合わせて、粉体関連機器や技術に関するガイドブック「粉体技術総覧 2022/2023」を発行し、展示会場にて無料で配布します。キーワードで製品やメーカーを検索ができる WEB 版も開設します。

1-3 人材育成・教育事業(教育部門)

2022 年度は、粉体入門セミナー、粉体技術者養成講座などを中心に以下の講座、セミナーの開催を予定しています。

- ・粉体入門セミナー(Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ)
- ・粉体技術者養成講座(6 講座)
- ・粉じん爆発・火災安全研修【初級】【中級】
- ・粉体技術専門講座(粉体ハンドリング分科会)

2022 年度も新型コロナウイルス感染防止の観点から、Web セミナーなど、企画内容に工夫を加えて実施していきます。

1-4 規格・標準化事業(標準粉体、規格、粉じん爆発)

・標準粉体委員会

ガラスビーズ(MBP1-10,GBL)の供給体制に関する検討を引き続き行います。また、2019 年度実施した、SAP 14-12「SAP 試験用粉体 3」(けい砂、タルク、焼成関東ローム、重炭酸カルシウム)のラウンドロビンテスト結果をもとに検討したのち JIS Z 8901「JIS 試験粉体 3」として追加する予定です。

・規格委員会

協会規格および JIS の定期見直しのほか、2 件(継続)の JIS 原案を規格協会へ提出し、3 件(新規)の JIS 原案作成委員会を立ち上げます。また、ISO/TR 13097、ISO/TS 22107 の対訳版も作成します。規格・標準化の広報・啓発活動として、新規制定された規格などを紹介するセミナーを開催します。

・粒子特性評価委員会

粒子特性評価委員会は、3 件の規格開発プロジェクトを経済産業省委託事業として契約締結しつつ、粒子特性評価の測定解析手順の確定に向けた ISO 規格開発活動を行います。

・ふるい委員会

ふるい委員会は、試験用ふるいおよび工業用ふるいをを用いて粒子をふるい分け検査測定する手順の確定に向けた ISO 規格開発活動を行います。

・集じん技術委員会

集じん技術委員会は、3 件の規格開発プロジェクトを経済産業省委託事業として契約締結しつつ、空気およびその他ガスの清浄装置の試験方法の手順の確定に向けた ISO 規格開発活動を行います。

・粉じん爆発委員会

粉じん爆発委員会は、2022 年粉じん爆発・火災安全研修【初級】および【中級】のプログラム詳細を決定し実施します。また、国際粉体工業展東京2022で粉じん爆発情報セミナーを企画し実施します。

1-5 海外交流事業(海外交流)

韓国の KOREA CHEM、中国・上海の IPB、独・ニュルンベルクの POWTECH には、状況に応じて交換ブースを出展し、国際粉体工業展東京2022では、それぞれの展示会主催者に交換ブースを提供します。

第 12 回海外情報セミナーを企画し、国際粉体工業展東京2022にて開催します。

協会活動を英文でまとめた APPIE Annual Report を作成し、海外へ配信するほか、協会ホームページの英文版を海外に向けてリニューアルします。

1-6 展示会事業

国際粉体工業展東京2022を、12月7日(水)～9日(金)に東京ビッグサイトで開催します。注目度の高いテーマにスポットを当てた「最新情報フォーラム」、「粉体工学入門セミナー」や「粉体機器ガイダンス」をはじめとした各

種セミナーや、出展社による「製品技術説明会」などの多彩な行事を予定し、ビジネスチャンスが生まれる展示会を目指しています。また、国際粉体工業展大阪2021に引き続きオンライン展示会を11月21日(月)～2023年1月27日(金)まで併設し、リアルとオンラインによるハイブリッド展示会として開催します。

1-7 標準粉体製造頒布事業(製造事業部門)

島津式沈降天秤の後継機開発は終わりましたが、2022年度も従来機との検証を続けていきます。また、受注システムの変更は、現在使用中のエクセルのバージョンアップ(Windows10)について委託会社(ホソカワ受託加工(株))と連携して検討を行います。

1-8 会員共益事業(技術情報交流懇話会、推薦審査、人材育成)

以下の活動を通じて、会員相互の親睦と技術情報交流、人脈形成などの促進を図ります。

- ・技術情報交流懇話会：火曜会(東京4回)、水曜会(名古屋3回)、木曜会(大阪3回)、金曜会(福岡2回・広島1回)を開催します。
- ・推薦審査委員会：分科会功労賞、委員会・部門功労賞、協会賞、粉体工業展賞、粉体工業功績者表彰の審査・推薦および個人会員・会友の入会審査を行います。
- ・人材育成委員会：「若手のつどい」を4回開催、国際粉体工業展東京2022に合わせ、学生ツアー・交流会の企画・運営を行います。

2. 会議・会合

2.1 第41回定時総会

開催日時：2022年5月24日(火) 13:00

場 所：東京/東京ガーデンパレス

2.2 理事会

	開催日時		開催場所
第1回	2022年5月12日(木)	14:00	大阪/ANAクラウンプラザホテル大阪
第2回	2022年5月24日(火)	14:30	東京/東京ガーデンパレス
第3回	2022年8月2日(火)	14:00	東京/東京ガーデンパレス
第4回	2022年11月24日(木)	12:30	京都/ホテルグランヴィア京都
第5回	2023年3月16日(木)	14:30	大阪/ANAクラウンプラザホテル大阪

2.3 諮問会議

	開催日時		開催場所
第1回	2022年4月22日(金)	13:00	京都/協会本部会議室
第2回	2022年7月12日(火)	14:00	東京/東京ガーデンパレス
第3回	2022年10月19日(水)	13:00	名古屋/名鉄グランドホテル
第4回	2023年2月24日(金)	14:00	京都/協会本部会議室

2.4 定例会合

	開催日時	開催場所
秋期定例会合	2022年11月24日(木) 15:00	京都/ホテルグランヴィア京都

2.5 分科会連絡会議および委員会・部門連絡会議

分科会連絡会議	2023年1月20日(金) 13:00	名古屋/名鉄グランドホテル
委員会・部門連絡会議	2023年1月21日(土) 9:30	名古屋/名鉄グランドホテル

3. 粉体工業展

3.1 国際粉体工業展東京2022 の開催

12月7日(水)から12月9日(金)までの3日間、国際粉体工業展東京2022が開催される。東京ビッグサイトに会場を移し7回目(通算24回目)となりえ今回は、多くの併催イベントを企画し、さらに魅力的な展示会づくりを目指し綿密に準備を進めつつある。

また、展示会場でのリアル展示会とともに、前回の大阪に引き続き東京展では初開催となるオンライン展示会を会期前から会期後も含め開催することになっている。

1. 開催概要

・リアル展

会期: 2022年12月7日(水)~9日(金) 9:30~17:00

会場: 東京ビッグサイト 東1・2・3ホール

・オンライン展

開催期間: 2022年11月21日(月)~2023年1月27日(金)

2. 出展対象技術・製品

粉粒体製造機器/粉粒体計測機器/研究室用機器・ラボ機/受託加工・受託計測/シミュレーション・ソフト/粉体材料/書籍・JIS規格・標準粉体

【特別展示ゾーン】

特別展示ゾーンとして「先端材料ゾーン」と「粉体シミュレーションゾーン」を設置する。

【先端材料ゾーン】

ナノマテリアル/電池材料/医薬品材料/食品用材料/複合材料/材料製造法

【粉体シミュレーションゾーン】

ソフトウェア/シミュレーション用物性取得/検証実験用機器

3. 多彩な併催行事(一部予定含む)

ユーザ企業からのニーズが高い『粉』に関する併催企画を多数開催する。

【粉体工学入門セミナー】

粉体工学の基礎を勉強し始めるための準備編として、初心者でも分かりやすく解説する。

【粉体機器ガイダンス】

機器基本原理の解説と、企業による機器選定に役立つ初心者向けのセミナーを開催する。

【最新情報フォーラム】

会期中3日間、注目度の高いテーマにスポットを当てたフォーラムを開催する。

【その他】

「海外情報セミナー」、「粉じん爆発情報セミナー」、「AI技術利用セミナー」、「粒子径計測の基礎」、「JIS/ISO(粒子特性評価)の最新動向(仮題)」など、多彩な併催行事を予定している。

4. 常置委員会

4.1 総務委員会 (角井寿雄委員長、六車嘉貢副委員長)

委員会開催予定:3回

活動:第3期中期運営計画に基づき以下を行う。

- 1) APPIE メールマガジンの発信を継続し更なる内容の改善を図る。(作成・発信は協会総務が担当)
配信先に分科会参加者(企業)を加える。
- 2) 協会ホームページの更新・メンテナンス・改善を行う。(更新・メンテナンス・改善作業は協会総務が担当)
- 3) 「国際粉体工業展東京2022」非会員出展社に対し入会勧誘を行う。
- 4) 過去3年間の入退会リストを更新し、入会・退会理由を明らかにし、会員増強と退会防止の取り組みについて討議、実施する。
- 5) 会長特命事項
 - 5)-1. 新入会員オリエンテーション実施への協力を継続する。
 - 5)-2. 組織強化委員会および海外交流委員会と連携し、「広報改革」について議論し、外部の専門業者を起用しメールマガジン、ホームページの改善を行う。

4.2 組織強化委員会（山田幸良委員長、前田孝善副委員長）

活動:委員会が必要に応じ開催

1)新入会員オリエンテーションの実施

2022年4月12日(東京)、12月15日(大阪)で開催予定である。総務委員会、分科会運営委員会と連携する。

2)協会広報の改革

新型コロナウイルス禍においても、協会会員および産業界に協会活動を理解しながら参画してもらうために、広報、特に展示会、メルマガあるいはHPといったインターネット系の手段の見直しを引き続き進める。粉体工業展委員会、総務委員会と連携する。

3)ホームページリニューアル

2022年4月以降、会員専用サイトの充実化や英文ホームページ改訂に注力していく。総務委員会、海外交流委員会と連携する。

4.3 技術委員会（牧野尚夫委員長）

活動:委員会が必要に応じて開催する。

1)AI技術利用委員会の活動を支援する。

2)委員会、分科会に共通する技術的問題が生じた場合は適宜対応していく。

4.3.1 AI技術利用委員会（酒井幹夫委員長、島田憲成、山本浩充各副委員長）

委員会開催予定:2回、小委員会開催予定:3回

活動:

粉体プロセスにおけるサイバーフィジカルシステムの構築に向けて、講演などを通して最新のデジタル技術に関する情報・知見を得る。データサイエンスに関するチュートリアル(講義)を開催して、協会にAIをはじめとするデータサイエンスに関する技術を浸透させ、会員企業のデジタル技術の導入促進を図る。

4.4 「粉体技術」編集委員会（内藤牧男委員長、加納純也、根本源太郎各副委員長）

委員会開催予定:本委員会 4回、小委員会 12回

活動:

電子媒体出版に向け、関係部署と連携して具体的活動を進める。また、毎月の企画特集、連載講座を含め多様な魅力ある記事の掲載を進め、本誌のさらなる充実を図っていく。2022年度は以下の特集を予定している。

月号	特集予定
4月号	協会を支える分科会活動
5月号	AI、IoTを活用した新しいリサイクル技術
6月号	(コロナ)ウイルス関連
7月号	カーボンニュートラル
8月号	ファインバブルの応用技術および産業化
9月号	食品粉体に関わる先端技術
10月号	粉体ビジネスを変革させるビッグデータの活用
11月号	粉体技術関連
12月号	粒子積層特集
1月号	教育・人事・安全など
2月号	モノづくりを支える3D技術
3月号	アミューズメントと粉体

4.5 推薦審査委員会（加藤文雄委員長、牧野尚夫副委員長）

委員会開催予定:3回

活動:2021年度に準じ、年3回の会合で、各賞の表彰規定に則って、審査業務を実施していく。

4.6 粉体工業展委員会（山田幸良委員長、槇野利光、三宅康雄各副委員長）

委員会開催予定:東京/大阪粉体工業展委員会の開催時に併せ必要に応じて開催する。

活動:

1)国際粉体工業展東京2022の概要

国際粉体工業展大阪2021で導入した「ハイブリッド展示会方式」を改善しレベルアップを図る。

・コロナ禍の影響、Web 業務の普及による社会変化などを勘案し、有料小間目標を前回東京2018実績の約 80%となる 700 小間とする。

・リアル展の開催概要 開催期間：2022年12月7日(水)～12月9日(金)、3日間

・オンライン展の開催概要 開催期間：2022年11月21日(月)～2023年1月27日(金)

2)海外交流委員会と協力し、世界の主要粉体工業展の情報収集

KOREA CHEM(韓国・ソウル)、IPB(中国・上海)、POWTECH(ドイツ・ニュルンベルク)など

4.6.1 東京粉体工業展委員会(榎野利光委員長、芦澤直太郎、森山秀男各副委員長)

委員会開催:本委員会4回、正副委員長会議:本会議に合わせ開催、広報(出展来場促進)小委員会、オンライン展検討小委員会及び会場運営実行小委員会をそれぞれ2回、粉体技術総覧小委員会4回、併催行事小委員会1回

活動:

国際粉体工業展東京2022について、上記の委員会を開催し詳細な計画を詰めつつ、広報活動及び出展・来場促進活動に注力し成功を目指し活動する。

4.6.2 大阪粉体工業展委員会(三宅康雄委員長、池田憲俊、加藤康弘各副委員長)

委員会開催予定:本委員会3～4回、小委員会(必要に応じて出展促進委員会等を開催する)

活動:

第14回の反省を踏まえ、「国際粉体工業展大阪2023」の開催(インテックス大阪、2023年10月11日(水)～13日(金))に向けての準備を行う。

主たる課題

①ハイブリッド方式、オンライン展示会の改善/②出展促進/③来場者増加/④併催行事数とスケジュールの検討/⑤効果的な広報の検討/⑥運営面の改善/⑦その他、反省会での指摘事項の検討、改善

4.7 分科会運営委員会(奥山喜久夫委員長、浅井信義、鈴木康夫各副委員長)

委員会開催予定:本委員会4回、分科会相談会1回

活動:

1)分科会活動の全体的な検討を行い、分科会活動が将来に向かって順調に発展するように議論を進める。分科会運営相談会などを通して、分科会開催や、正副コーディネータ・正副代表幹事・幹事などの体制の改善が必要な場合は、分科会の方々と協力して、組織および運営の充実化を進める。

2)将来必要となる粉体技術などについて議論し、必要に応じて新しい分科会の立ち上げや、統合などについて議論する。

3)新型コロナウイルス感染症が引き続き流行する場合には、Webセミナー開催となることもやむをえないが、できるだけ会場でのオンサイト開催、さらに分科会開催後の交流会が開催できるように、サポートする。

4.8 海外交流委員会(浅井信義委員長、田辺大二副委員長)

委員会開催予定:本委員会3回、小委員会3回

活動:

1) 3つの海外展示会について、新型コロナなどの状況に応じてバーター契約などの対応をする。

・KOREA CHEM 韓国・ソウル近郊 6/14(火)～17(金)

・IPB 中国・上海 7/27(水)～29(金)

・POWTECH 独・ニュルンベルク 9/27(火)～9/29(木)

2) 海外情報セミナー(12/9 国際粉体工業展東京 2022 併催行事)企画開催予定。

3) APPIE Annual Report を作成、配信する。

4) 協会 HP 英文版リニューアルに向けて海外の人向けの内容を検討する。

4.9 人材育成委員会(荻田容宏委員長、榎野利光、菅原尚也各副委員長)

委員会開催予定:本委員会4回

活動:

- 1) 「若手のつどい」を年 4 回(委員会と同日)行ないたい。具体的な方法は現在検討中で一か所に集まるリアル会合が望ましいが、状況判断によりオンラインにせざるを得ない場合でもデジタル機器を駆使して血の通った交流会(つどい)を模索する。
- 2) 国際粉体工業展東京 2022 におけるの学生ツアー・交流会(または粉工展見学ガイダンス)の企画運営を行う。今後の世代交代を考えて講師候補となる若手先生の発掘をしていく。

4.10 標準粉体委員会 (森康維委員長、後藤邦彰副委員長)

委員会開催予定: 本委員会2回、小委員会2回

活動:

- 1) JIS 試験用粉体 1 (JIS Z 8901)の粒子径分布測定器の更新
協会がホソカワミクロン(株)と契約した後継機開発(2021 年度未完了予定)状況とその結果を検討する。
- 2) SAP 試験用粉体 3 の JIS 規格化の予備検討
適切な粒子屈折率(実部、虚部)を見出す方法を検討し、JIS 原案作成委員会に粒子屈折率の考え方を提案する。
- 3) JIS 試験用粉体 2(JIS Z 8901)「ガラスビーズ」の試作
乾式分級だけでなく、湿式分級も検討し、粒子径分布と形状が JIS 規格に合致する生産方法を見出す。
- 4) MBP 粒子の小分け操作法の確立
バルク体からの縮分操作の確立と小分けした瓶間の不確かさを検証する。

4.11 規格委員会 (松山達委員長、高橋かより副委員長)

委員会開催予定: 2回

活動:

- 1) SAP、JIS、ISO の現状把握、協会規格や JIS の定期見直しの対応、JIS 原案作成検討、支援をする。
- 2) 協会 HP や「粉体技術」誌に新規制定規格などを紹介する。
- 3) セミナー開催
 - ・コロナ禍で延期になっている標準化セミナーは、感染状況に応じて実施する。
 - ・テーマを決めて内容を構成している標準化セミナーとは別に、毎年新規・改正発行される JIS や ISO を定期的に紹介するために、粉工展でのセミナー開催を検討、実施する。
 - ・「粒子径計測入門」セミナー(国際粉体工業展東京 2022 併催行事)を開催予定。

4.11.1 粒子特性評価委員会 (桜井博委員長、伊串達夫副委員長)

委員会開催予定: 委員会 2 回

活動:

2021 年度に引き続き、ISO/TC 24/SC 4 における ISO 規格文書作成等に取り組む。

4.11.2 ふるい委員会 (松山達委員長)

委員会開催予定: 委員会 1 回

活動:

2021 年度に引き続き、ISO/TC 24/SC 8 における ISO 規格文書作成等に取り組む。

- ・SC8 会議(2022 年秋開催予定)に出席。
- ・上記 SC8 会議以降の適当な時期に委員会を1回開催し、対応を協議する。

4.11.3 集じん技術委員会 (福井国博委員長、森下あや子副委員長)

委員会開催予定: 委員会 2 回

活動:

WG-B(委員長: 福井, 副委員長: 木村)において、23742 について CD 登録(30.00)までの進展を目標とする。また、ろ布の帯電性能・難燃性能評価試験法に関する規格原案策定のための情報収集・試験研究等の検討完了を目指す。

WG-C(委員長: 森下, 副委員長: 福井)において、16313-2 について WD の CD としての登録承認(20.99)までの進展を目標とする。

これらの規格開発に加え、新規の「ろ布の帯電性能・難燃性能評価試験法」の規格審議もスタートさせる。

4.11.4-1 2021 年度 JIS 原案作成委員会(2) (伊藤和輝委員長)

－ISO17867: Particle size analysis -- Small-angle X-ray scattering の JIS 制定－

活動: 委員会開催と分科会開催をそれぞれ 1 回開催し、5 月末目標に JIS 原案を完成させる。

4.11.4-2 2021 年度 JIS 原案作成委員会(3) (森康維委員長)

－ISO14411-2: 検定用粒子 第 2 部: 多分散球形粒子の JIS 制定－

活動: 委員会開催と分科会開催をそれぞれ 1 回開催し、5 月末目標に JIS 原案を完成させる。

4.11.4-3 2022 年度 JIS 原案作成委員会(1) (桜井博委員長)

－ISO15900 Determination of particle size distribution - Differential electrical mobility analysis for aerosol particles 粒子径分布解析－エアロゾル粒子の微分型電気移動度分析－

委員会開催予定: 委員会 3 回、小委員会 7 回

JSA 原案作成公募制度により JIS を作成する委員会を開催する。2020 年に発行された ISO15900:2020 (Ed.2) Determination of particle size distribution - Differential electrical mobility analysis for aerosol particles に対応する JIS の制定を行う。

4.11.4-4 2022 年度 JIS 原案作成委員会(2) (松山達委員長)

－JIS Z 8827-2 粒子径解析－画像解析法－第 2 部: 動的画像解析法 (ISO 13322-2) 改正－

委員会開催予定: 委員会 3 回、小委員会 5 回

本委員会は現在 13 名の委員により構成され、2022 年度 JIS 原案作成委員会 1(2021 年 7 月に発行された ISO 13322-2: Particle size analysis – Image analysis methods – Part 2: Dynamic image analysis methods をもとに 2010 年発行の JIS Z 8827-2 を改正する必要がある。そこで、JIS 原案作成委員会 2 を立ち上げ JSA 原案作成公募制度に応募し JIS 改正作業を行う。

4.11.4-5 2022 年度 JIS 原案作成委員会(3) (藤正督委員長)

－JIS Z 8831-2 粉体(固体)の細孔径分布及び細孔特性－第 2 部: ガス吸着によるメソ細孔及びマクロ細孔の測定方法 (ISO 15901-2) 改正－

委員会開催予定: 委員会 3 回、小委員会 5 回

ガス吸着による粉体(固体)の 2～50nm の間のメソ細孔及び 50～100nm の間のマクロ細孔の特性及び細孔径分布の測定方法について規定する。この規格は、吸着ガスに特定のガスの使用を指定しないが、液体窒素温度における窒素ガスの吸着が最も利用されている測定方法である。今回 2022 年 1 月に発行された ISO 15901-2 および ISO 15901-3 が合体された規格内容を用いて 2010 年発行の JIS Z 8831-2 を改正する。

4.12 粉じん爆発委員会 (山隈瑞樹委員長、土橋律、太田潔各副委員長)

委員会開催予定: 3 回

活動:

1) 安全教育

- ・粉じん爆発・火災安全研修【初級／基礎編】(毎年秋、関東関西交互に開催): 2022 年秋に開催予定
- ・粉じん爆発・火災安全研修【中級／技術編】の開催: 2023 年 2 月に開催予定

2) 行事等への対応

- ・国際粉体工業展東京 2022 における「粉じん爆発情報セミナー」の企画・開催予定

3) 最新の規制、規格等動向および技術情報の把握

- ・WG による検討継続

WG-A(粉じん危険場所分類検討)、WG-B(堆積粉体の着火・燃焼性評価手法ならびに安全対策調査)による検討を続ける。

- ・粉じん爆発関係の安全国際規格やリスクアセスメント手法についても情報収集を続ける

4) 分科会等との連携

2021 年度は実施できなかったが、各工程を専門的に検討している分科会等との連携は有意義であり、今後とも機会があれば実施していく。

5. 分科会

5.1 粉体ハンドリング分科会

(松坂修二コーディネータ、河府賢治副コーディネータ、海老原裕之代表幹事、鍋内浩副代表幹事)

回	予定時期	予定地区	主テーマ
1	2022.6	関西	施設見学、技術講演、(懇親会)
2	2022.9	東京	技術講演、製品紹介、(懇親会)
3	2022.12	東京	技術講演、製品紹介、(懇親会)
4	2023.3	東京	技術講演、製品紹介、(懇親会)

幹事会開催予定 計:4回

中期の活動テーマ

- 1) 粉体ハンドリングをマテリアルハンドリングの範疇と捉え、取り組みの範囲を拡大する。
- 2) 粉体技術者養成講座および粉体技術専門講座の優先度を考えて企画・実践する。
- 3) 最近の粉体ハンドリング産業の技術力の変遷を把握し、将来展望を見据えた基盤技術や解決困難な技術的課題を抽出し、研究や勉強の場を企画する。

今年度の事業計画の概要と運営方針

- 1) コロナの感染状況を注視し参加者の安全を担保した上で、ニーズにマッチした年4回の分科会開催を目指す。
- 2) 「粉体ハンドリング技術」誌の販売促進を行う。
- 3) 22年度中の粉体技術専門講座開催に向け、企画立案を進める。

5.2 粉砕分科会

(内藤牧男コーディネータ、加納純也副コーディネータ、石井利博代表幹事、湯蓋一博副代表幹事)

回	予定時期	予定地区	主テーマ
1	2022.7.4~7.5	山口東京理科大学、UBE(株)	粉体プロセスと材料開発(集じん分科会と合同)
2	2023.3.9~3.10	台湾/国立台湾大学	日台シンポジウムと見学会

幹事会開催予定 計:5回

中期の活動テーマ

- 1) 粉砕の重要技術、最新技術、ユーザの潜在的ニーズを分析して、これらを分科会のテーマとして取り上げ、メーカーとユーザとの交流を促進する充実した本会合を目指す。
- 2) 粉砕に関する産業界・学界の交流を通じて、粉砕技術に関する最新の情報を参加者に提供する。
- 3) 粉体技術者養成講座などを通じて、粉砕技術の教育、普及啓発に努める。
- 4) 粉砕技術に関する技術者再教育や国際交流のための企画を検討し実施する。

今年度の事業計画の概要と運営方針

- 1) 分科会は年2回開催する。新型コロナウイルス感染症の状況により、フレキシブルに対応する。
- 2) 共催行事として、(一社)粉体工学会主催の「芸術と粉体工学に関するワークショップ」を5月16日に女子美術大学にて開催する。また、国際会議 ICCCI2022(11月15~18日、山梨県)も共催し、産学の国際的な交流を図る。
- 3) 粉体技術者養成講座では、受講者を「若手からベテランまで」と拡大し、粉砕実習と合わせ、粉砕現象やそのプロセスに対する理解を深めるための機会とし、さらに発展・充実させる。
- 4) 第2回分科会は日本・台湾シンポジウムを開催予定である。国際交流は先端技術の理解および国外ユーザとの接点という観点からも重要である。

5.3 分級ふるい分け分科会

(松山達コーディネータ、所千晴副コーディネータ、佐藤一彦代表幹事、荻田容宏、勝又正樹各副代表幹事)

回	予定時期	予定地区	主テーマ
1	2022.6	関東	湿式分級と培養操作(佐竹マルチミクス(株))
2	2022.	未定	講演会と見学会

幹事会開催予定 幹事会 計:2回

中期の活動テーマ

- 1) 粉体材料の高機能化に向けた分離径制御技術
- 2) 粉粒体処理プロセス効率化のための分離技術
- 3) 分級ふるい分け装置のトラブルとその防止策

4) 分級ふるい分けに関する規格と標準化

今年度の事業計画の概要と運営方針

- 1) 粉粒体取り扱い工場の見学と講演会の開催(2回)
- 2) 分級ふるい分け装置における付着、摩耗対策に関する調査
- 3) ふるい網に関する規格、標準化の情報収集
- 4) 技術講座の内容検討

5.4 乾燥分科会

(田門肇コーディネータ、立元雄治副コーディネータ、飯田晃弘代表幹事、佐藤澄人副代表幹事)

回	予定時期	予定地区	主テーマ
1	2022.6	(未定)	(コロナ禍に伴い、中止)
2	2022.11	東京	乾燥技術、装置関連の講演会

幹事会予定:2回

中期活動テーマ

食品、医薬、化学、環境、バイオマス、廃棄物など、できるだけ興味を持てるテーマでの工場見学会、講演会を実施する。また海外の乾燥シンポジウムなどからの最新の乾燥技術・研究動向の報告講演会を開催し、国内への情報発信を継続実施していく。

今年度の事業計画の概要と運営方針

- 1) 第1回分科会 見学・講演会(コロナ禍に伴い、中止)
- 2) 第2回分科会 乾燥技術(国際乾燥シンポジウム他)、装置関連の講演会を予定

5.5 集じん分科会

(牧野尚夫コーディネータ、福井国博副コーディネータ、中根幹夫代表幹事、中根隆一副代表幹事)

回	予定時期	予定地区	主テーマ
1	2022.7.4~7.5	宇部興産(株)/宇部マテリアルズ(株)	設備見学と講演会
2	未定	栃木/住友大阪セメント	設備見学と講演会
3	2022.11	未定	未定
4	2023.2	未定	未定

幹事会開催予定:幹事会:4回

中期活動テーマ

- 1) 分科会活動は、各幹事の役割分担を明確にし、本会合を4回/年程度開催、粉体技術者養成講座の充実、専門講座の数年に一回程度開催などを基本とし、一層の活性化を図る。
- 2) 集じん技術利用領域の拡大や様々な装置との合理的な組み合わせ等を目指し、他分科会との合同開催や他の学・協会との共催行事等を積極的に推進する。また、ユーザからの要望を積極的に調査する。
- 3) 集じん技術委員会の国際規格化推進への支援を継続推進する。

今年度の事業計画の概要と運営方針

- 1) 分科会活動は中期活動テーマに基づき、新型コロナウイルス感染拡大状況を踏まえつつ、本会合を2~4回/年開催を企画する。その中で他の分科会との合同開催、粉体工学会・研究会との共同開催などを積極的に行うとともに、集じん機ユーザの要望調査を行う。粉体技術者養成講座は関東から関西圏内での開催を検討し、広く集じん技術を伝えることを可能とする。
- 2) 集じん技術委員会への支援は例年通り継続し、粉体技術者養成講座についても運営を継続する。
- 3) 各会合の開催は、新型コロナウイルス感染拡大状況に応じて、WEB開催または併用を適宜検討する。

5.6 混合・成形分科会

(藤正督コーディネータ、森隆昌副コーディネータ、朝日正三代表幹事、藤井淳副代表幹事)

回	予定時期	予定地区	主テーマ
1	2022.6	山形	固形製剤の連続生産と医薬品製造設備の見学
2	2022.11	東京	講演会及び法政大学研究施設の見学

幹事会開催予定:幹事会:3回

中期活動テーマ

- 1) 粉体の混合・混練・成形に係わる『温故知新』と『最新技術』をテーマに、最先端事業への取り組みや技術の伝承などについての情報提供の場となるような、工場見学会や講演会を計画する。

- 2)IoT や AI を活用した自動化システムが、混合・混練・成形の最先端技術にどう反映されているか注目していく。
 3)粉体技術者養成講座を通じた教育にも注力し、粉体技術専門講座の開催も目指す。

今年度の事業計画の概要と運営方針

コロナ禍の影響によりユーザでの工場見学は受け入れが難しい状況が続くと思われるため、装置メーカーの新技术や技術動向にも活動テーマを広げた見学会や講演会を計画するなど、柔軟に対応していきたい。

5.7 造粒分科会

(村瀬和典コーディネータ、武井孝副コーディネータ、小泉一郎代表幹事、岩松英敏副代表幹事)

回	予定時期	予定地区	主テーマ
1	2022.10	大阪	技術講習会: 基本的造粒原理を理解するための小型研究機による実習付講座
2	未定	東海地区	施設見学会

幹事会開催予定: 4 回

中期活動テーマ

- 1) 会員が業務上で取得したい情報の提供。ユーザーニーズとそれに答えるメーカーの技術・開発の努力を有効に繋げる。
- 2) 造粒による有用な複合材料の創生アプリケーションと様々な最新、ユニークな造粒技術、造粒装置の紹介。

今年度の事業計画の概要と運営方針

- 1) ”基本的造粒原理を理解するための小型研究機による実習付講座” (造粒分科会 技術講習会) を 2022 年 11 月に実施する予定。

5.8 計装測定分科会

(森康維コーディネータ、後藤邦彰副コーディネータ、池田英幸代表幹事、阿川直樹・稲山良介各副代表幹事)

回	予定時期	予定地区	主テーマ
1	2022.6	未定	エアロゾル計測、希薄濃度系での測定技術など

幹事会開催予定: 4 回

中期活動テーマ

- 1) ナノ粒子・バイオ粒子・エアロゾル計測、AI、IoT に対応するプロセス計測を含む新しい粉体測定技術の探求と信頼性向上

今年度の事業計画の概要と運営方針

- 1) 分科会本会合は 1 回実施予定
- 2) 粉体技術者養成講座は、オンラインで分科会行事として開催予定

5.9 湿式プロセス分科会

(岩田政司コーディネータ、菰田悦之副コーディネータ、石川敏代表幹事)

回	予定時期	予定地区	主テーマ
1	未定	奈良	①墨の製造・産業用途への展開、②書家の講演 ③幹事企業による製品紹介
2	未定	未定	オンライン講演会

幹事会開催予定: 2 回

中期活動テーマ

- 1) 各種プロセスにおける固液分離
 - ・液移動に種々の場の力を用いた固液分離
 - ・吸着・イオン交換・ゲル化などと複合させた固液分離
 - ・難ろ過性スラリーの固液分離
 - ・固液分離過程のモニタリング
 - ・沈降助剤などを含む複合凝集剤
- 2) 微粒子の凝集・分散状態の制御とその応用
 - ・様々な媒体中における微粒子分散過程の理解
 - ・粒子分散液内部構造のレオロジー解析
 - ・粒子分散状態の相補的解析手法の構築
 - ・スラリー塗工プロセスによる薄膜構造形成

- ・各種電池電極の構造制御
- 今年度の事業計画の概要と運営方針
- 1) 上記の中期活動テーマに基づき、見学会・講演会を開催する。
 - 2) 新体制への移行(代表幹事の交代)。

5.10 輸送分科会

(田中敏嗣コーディネータ、武居昌宏副コーディネータ、岸本武志代表幹事、松井哲也副代表幹事)

回	予定時期	予定地区	テーマ
1	2022.8	九州	環境・リサイクル技術と粉体 工場見学及び講演(分級ふるい分けと合同開催)
2	2022.10	未定	(粉体ハンドリングと合同予定)、未定
3	2023.3	未定	特に無し

幹事会開催予定:5回

中期活動テーマ

- 1) メーカーおよびユーザー双方の会員にとって有益となる情報収集とその発信に努めたい。
- 2) 近年、注目を集めているAIおよびIoTの利用技術に関連して、AIのインピーダンス・トモグラフィ計測への応用など、トレンドな情報収集をして発信していきたい。
- 3) 海外での分科会開催についても長期的な視野で検討を行いたい。
- 4) 各幹事会社の現状のニーズなどから活動内容を考えていきたい。
- 5) 輸送技術の基礎についての定期的な発信を考えていきたい。
- 6) 専門講座の開催に向けた検討を行なう。

今年度の事業計画の概要と運営方針

コロナの先行きが見えていないが、できる限り3回開催を目指したい。講演のみの開催も考える。

5.11 クリーン化分科会

(並木則和コーディネータ、鍵直樹副コーディネータ、林 敏昭代表幹事、松田朋信副代表幹事)

回	予定時期	予定地区	テーマ
1	2022.8	未定	自動車関係のクリーン化技術
2	2022.11	未定	クリーン化技術の規格
3	2023.2	未定	未定

幹事会開催予定:3回

中期活動テーマ

- 1) 対象を安心、安全、快適な生活空間を確保するためのクリーン化技術(PM2.5や病原性粒子対策など)に拡大した活動を継続。
- 2) 他の分科会や学会・協会との連携強化。
- 3) これまでの高度なクリーン空間の創出で構築されたクリーン化技術の伝承。

今年度の事業計画の概要と運営方針

- 1) クリーン化技術に関わる工場見学と講演会を企画する。
- 2) クリーン化に関連する要素技術の講演会を企画する。
- 3) 合同分科会により情報網を広げる

5.12 環境エネルギー・流動化分科会

(幡野博之コーディネータ、成瀬一郎副コーディネータ、山本昌幸代表幹事、細田博之副代表幹事)

回	予定時期	予定地区	テーマ
1	2022.6	福島	福島県内エネルギー関連設備の見学会
2	2022.8	東海地方	バイオマス発電と流動層乾燥機工場見学会
3	2022.9	東京(中大)	講演会:脱炭素・CNをめぐる最新の話から
4	未定	未定	未利用エネルギー関連見学会

幹事会開催予定:幹事会 4回

中期活動テーマ

- 1) 流動層という本分科会の基幹技術の更なる応用・展開事例をリサーチし、発信していく。
- 2) 再生可能エネルギー(木質バイオマス、廃棄物系バイオマス)利用の最先端技術を紹介していく。

3) 新しい環境づくり、新しい社会の創生への筋道を「環境エネルギー」というキーワードと共に、本分科会活動を通して学習し、発信していく。

今年度の事業計画の概要と運営方針

- 1) 再生可能エネルギー(木質バイオマス、廃棄物系バイオマス)利用の最先端技術の学習
- 2) 粉体技術としての流動層適用事例の見学または講演
- 3) 環境・エネルギー関連の講演会または見学会

5.13 晶析分科会

(白川善幸コーディネータ、正岡功士副コーディネータ、伊藤雅章代表幹事、金子雅哉副代表幹事)

回	予定時期	予定地区	テーマ
1	2022.8.23	日独	Protein aggregation & crystallization
2	2022.10	東京	環境と調和した資源エネルギーの利用開発
3	2022.12	東京	粒子成長過程の可視化

幹事会予定:幹事会 4 回

中期活動テーマ

- 1) 国際的な最先端の技術情報の発信
- 2) 他の分科会、研究グループとの技術交流
- 3) 見学会および専門講座の再開

今年度の事業計画の概要と運営方針

- 1) タンパク質結晶化と晶析技術(国際交流事業)
- 2) 特殊反応場での結晶成長
- 3) 粒子成長過程計測の最新技術

5.14 微粒子ナノテクノロジー分科会

(渡邊哲コーディネータ、飯島志行副コーディネータ、鳥居経芳代表幹事)

回	予定時期	予定地区	テーマ
1	2022.8	日独・ACHEMA (WEB 又はハイブリット)	国際粉体技術フォーラム
2	2022.11	未定	微粒子・ナノ粒子の基礎
3	2023.1	未定	最新利用技術

幹事会開催予定:4 回

中期活動テーマ

- 1) 産業レベルでの微粒子・ナノ粒子の有効な利用技術、プロセス技術、量産技術及び応用例などについての最新情報の収集とその発信
- 2) 微粒子・ナノ粒子の安全性への対応についての情報収集およびその発信
- 3) 技術発展が著しい中国や欧州など海外での微粒子・ナノ粒子関連技術の情報収集とその発信

今年度の事業計画の概要と運営方針

- 1) 若手技術者のレベルアップを目指した WEB を活用した基礎的なセミナー開催
- 2) 微粒子・ナノ粒子の利用や応用に関する最新技術の発信(状況に応じ見学会を含む)
- 3) 海外の最新技術の収集と発信(海外機関との交流、セミナー開催)

5.15 電池製造技術分科会

(境哲男コーディネータ、堤敦司副コーディネータ、堀越勝代表幹事、木村正人・山田正各副代表幹事)

回	予定時期	予定地区	テーマ
1	2022.6	東京	EV用電池の開発状況
2	2022.10	大阪	電力貯蔵用電池の開発状況
3	2023.2	未定	水素・燃料電池の開発状況

幹事会開催予定:3 回

中期活動テーマ

- 1) 車載用電池の高性能化を目指した全固体電池などの開発状況とその粉体技術についての情報収集。
- 2) 2030 年までに実用化を目指す革新的二次電池と粉体技術の役割についての情報収集。
- 3) 商用車や船舶、飛行機などの電動化に使われる水素・燃料電池とその粉体技術についての情報収集。

今年度の事業計画の概要と運営方針

- 1)革新的二次電池に関して、大学・研究機関と連携して、粉体技術に求められる課題を明確化する。
- 2)車載用や電力貯蔵用のポストリチウムイオン電池に関して、電池メーカーや材料メーカーと連携して、実用化に必要とされる粉体技術について情報収集する。
- 3)水素・燃料電池に関して、量産に必要なとされる粉体技術について情報収集する。

5.16 リサイクル技術分科会

(大矢仁史コーディネータ、外川健一副コーディネータ、齊藤陽代表幹事、西村佳記、馬場一寿各副代表幹事)

回	予定時期	予定地区	テーマ
1	2022.6	静岡	現代の最新リサイクル工場の見学
2	2022.10	沖縄	廃自動車と廃家電リサイクル工場見学
3	2023.2	北九州	廃二次電池リサイクル工場見学

幹事会開催予定:4回

中期活動テーマ

- 1) 次世代リサイクル技術(特に発展性の高いEV等の自動車)への展開
- 2) AI, IoTを含めた廃棄物処理に関する新規技術のピックアップ
- 3) 低炭素社会を実現するリサイクル技術(廃プラスチック関連 他)

今年度の事業計画の概要と運営方針

- 1) 次世代自動車であるEVの主要部品:二次電池のリサイクルに関する現状把握
- 2) 先端技術であるAI, IoTにおける活用方法や次世代リサイクル技術への展開を学ぶ
- 3) SDGs やカーボンニュートラルに貢献できるリサイクル技術を検討する

5.17 食品粉体技術分科会

(羽倉義雄コーディネータ、五月女格副コーディネータ、野村光生代表幹事、西村元樹副代表幹事)

回	予定時期	予定地区	テーマ
1	2022.5~7	山口県	食品加工
2	2022.11~12	未定	未定
3	2023.2~3	未定	未定

幹事会開催予定:3回

中期活動テーマ

- 1)食品製造の基本となる『安全・安心』をメインテーマとする。
- 2)『最先端の生産技術』、『新たな調理・生産方式』、『食品の衛生管理』、『食品および容器包装の廃棄とリサイクル』、『ロボット、AI、IoT等のデジタル技術活用』などをサブテーマとする。

今年度の事業計画の概要と運営方針

- 1)中期活動テーマに沿って、食品工場の見学の他講演会や他分科会との共同開催などを通じ、食品に関わる新しい情報、技術を習得できる活動を行う。
- 2)単位操作技術についての「基礎」と「最新動向」だけではなく「ロボット、AI、IoT等のデジタル技術活用」など、食品メーカーに有意義な情報を提供していく。なお、本分科会のテーマは食品に関わる重要技術を取扱っているため、協会のみでなく食品関連他団体とも連携して幅広く参加者を勧誘していきたい。

5.18 粒子加工技術分科会

(竹内洋文コーディネータ、岩本清副コーディネータ、浅井直親代表幹事、伊藤有一副代表幹事)

回	予定時期	予定地区	テーマ
1	2022.8	Web	医薬品のスマート工場の実現に向けた基盤技術
2	2022.9	Web	未定
3	2023.2	未定	未定(見学講演会)

幹事会開催予定:4回

中期活動テーマ

製剤における粒子加工技術の向上

今年度の事業計画の概要と運営方針

- 1) 粒子加工技術及び製剤などに関する講演会・・・年2回
- 2) 製剤と粒子設計シンポジウムを粉体工学会の部会とともに共催し、各種粒子関連技術の交流を促進する
- 3) 粉体技術者養成講座開講・・・年1回

5.19 粉体シミュレーション技術利用分科会

(酒井幹夫コーディネータ、石神徹副コーディネータ、島田憲成代表幹事、小澤和三副代表幹事)

回	予定時期	予定地区	テーマ
1	2022.8	Web(ACHEMA)	(仮)医薬品のスマート工場の実現に向けた基盤技術(粒子加工分科会との合同分科会)
2	2022.11	山梨	ICCCI2022(共催)
3	2022.12	東京	粉体シミュレーション最新情報フォーラム(国際粉体工業展東京)
4	未定	Web	「粉体シミュレーションの活用」をテーマとした教育講座
5	未定	未定	合同分科会 募集中

幹事会開催予定:3回

中期活動テーマ

- 1) 大学、ベンダー企業、ユーザ企業の交流を通じたより実践的なシミュレーション技術の開発。
- 2) 粉体シミュレーションの技術者育成。
- 3) 最新のデータサイエンスやデジタル技術を組み合わせたより効果的なシミュレーションの活用方法の研究。

今年度の事業計画の概要と運営方針

- 1) シミュレーション技術の産業利用促進を目的とした教育や講習会に取り組む。
- 2) 他分科会との連携に取り組み、シミュレーションの適用範囲の拡大、新しい付加価値の創出を図る。
- 3) Web を組み合わせた分科会、幹事会の実施。

5.20 粒子積層技術分科会

(山村方人コーディネータ、瀬戸章文副コーディネータ、中尾修也代表幹事、中村圭太郎副代表幹事)

回	予定時期	予定地区	テーマ
1	2022.7.4	茨城	粒子噴射積層と全固体電池への応用
2	2023.1	大阪	粒子積層応用技術

幹事会開催予定:3回

中期活動テーマ

- 1) 湿式および乾式粒子積層プロセス技術の応用例と課題に関する最新情報の収集と発信
- 2) 粒子積層技術の工学的体系化を指向した情報収集とその発信
- 3) 粒子積層状態及び積層過程の評価、粒子集積(配列制御)に関する情報収集と発信

今年度の事業計画の概要と運営方針

- 1) 湿式および乾式粒子積層プロセス技術の応用例と課題に関する最新情報の収集とこれらに関する見学会、講演会の開催
- 2) 粒子積層技術の工学的体系化を指向した情報収集及び講演会の開催
- 3) 粒子積層状態及び積層過程の評価、粒子集積(配列制御)に関する情報収集と講演会の開催

5.21 バイオ粒子プロセス分科会

(野村俊之コーディネータ、荻 崇副コーディネータ、片山和彦代表幹事、秋山 聡副代表幹事)

回	予定時期	予定地区	主テーマ
1	2022.6	埼玉	バイオリアクターと湿式分級機
2	調整中	調整中	未定

幹事会開催予定:3回

中期活動テーマ

- 1) 医薬・食品等の製造プロセスから資源循環、環境浄化、クリーン化まで幅広い分野において、微生物やウイルスなどの生体や生体関連物質を「バイオ粒子」と捉えた新しい側面からの関連する課題や技術に関する最新情報の収集と発信
- 2) バイオ粒子プロセス技術の微粒子工学的体系化

今年度の事業計画の概要と運営方針

- 1) 第1回分科会 分級ふるい分け分科会と合同で佐竹マルチミクス株式会社での見学・講演会を開催(2020年度、2021年度開催予定も延期)
- 2) 第2回分科会 株式会社竹中工務店での見学・講演会を開催(時期等詳細は調整中)

6. 粉体工業技術センター（山田幸良センター長、前田孝善副センター長）

6.1 教育部門（松坂修二マネジャー、藤井淳・白川善幸各副マネジャー）

委員会開催予定: 本委員会1回

活動: 2022年度は、粉体入門セミナー、粉体技術者養成講座等を中心に下表の講座を実施する。粉体技術専門講座については、2～3件程度の企画提案を要請したいと考えており、新型コロナウイルスの感染防止の視点から、Webセミナーなども考慮して頂く。

粉体入門セミナー等のアンケートで不満が出された案件のうち、配信方法に対する不満など問題点が明確な課題に対しては着実かつ速やかに対応して行く。講義が難しいなどの指摘については、講義内容に参加者レベルを合わせるよう工夫する方針とし、講座レベルが分かり易い体系図入りの案内用パンフレットで参加者が的確に講義レベルを判断できるようにする。なお、粉体技術者養成講座で新たな講義内容となった科目については、受講生の反応などを調査し、より良い講座になるよう努めて行く。

アドホックセミナー、経営講座、特別講座については、良い案が出された時点で臨機応変に対応して行くが、名称の一本化による合理化なども検討する。

講座名とタイトル		開催日	開催場所	募集人数
粉体入門セミナー(Ⅰ)(第65回)		2022.6.2～3	Webセミナー	70
粉体入門セミナー(Ⅱ)(第66回)		2022.6.21～22	Webセミナー	70
粉体入門セミナー(Ⅲ)(第67回)		2022.7.6～7	Webセミナー	70
粉体技術者養成講座	乾燥	2022.9.27～28	静岡/㈱大川原製作所	10
	粉砕	2022.10月頃	広島/㈱広島メタル&マシナリー	15
	混合・混練	2022.10.27～28	千葉/大平洋機工(株)	8～12
	粒子加工	2022.11.1～2	浜松/フロイント産業(株)	7
	集じん	2022.12.13～14(予定)	名古屋/ウインクあいち(予定)	12
	ろ過	2023.1月末～2月初旬	大阪/関西金網(株)	6～12
第71回粉体技術専門講座(粉体ハンドリング分科会)		未定	日本大学 お茶の水キャンパス(候補)	未定
粉じん爆発・火災安全研修[初級・基礎編]		2022.9.13～14	未定	未定
粉じん爆発・火災安全研修[中級・技術編]		2023.2月頃	未定	未定

6.2 製造事業部門（前田孝善マネジャー）

委員会開催予定: なし

活動:

1) 標準粉体受発注新システムの検討

現在のシステムの保守・継続を行うにあたり、製造委託先のホソカワミクロン(株)と協力し、新システムの導入を検討しているが、現行システム(Excel)のバージョンアップなど安価で簡易的な手法も視野に入れ、2022年度も引き続き検討を続ける。

2) 2022年度計画

2022年度計画は、新型コロナウイルスの影響を考慮し2021年度の状況を踏まえて、予算を策定した。協会事業の一環として運営されている試験用粉体・標準粉体の頒布事業が、各産業界の発展に貢献できるよう今後も業務効率化を図りながら、事業を進めていく。また、より効率的な業務改善も検討する。

収支計画: (単位:千円)

	2022年度予算
売上(千円)	88,000
(売上前年度比%)	114.2
事業費(支出)	60,260
収支差	27,740
(収支差前年度比%)	104.5

6.3 産学技術交流推進部門（後藤邦彰マネジャー、三宅康雄副マネジャー）

委員会開催予定:3回

活動:

1) 技術相談

引き続き、講演会、セミナー、展示会でDM配布を行い、技術相談15件をめざす。

2) ベストシーズ講演会、テクノプラザ

APPIE 産学官連携フェアで注目を集めたテーマをとりあげるホットな話題の講演会「ベストシーズ講演会」を国際粉体工業展東京の併催行事として「テクノプラザ」と合わせて開催する予定。(なお、テクノプラザは講演会ではなく名刺交換会として開催予定)

講座名	開催日	開催場所
ベストシーズ講演会+名刺交換会(テクノプラザ)	2022.12.8 予定	東京ビッグサイト 国際粉体工業展東京2022 会場内

7. 技術情報交流懇話会

7.1 火曜会：東京にて4回開催

4月12日、7月12日、10月11日、2023年1月17日

7.2 水曜会：名古屋にて3回開催

6月15日、10月19日、2023年2月15日

7.3 木曜会：大阪にて2回開催

5月12日、9月15日、12月15日

7.4 金曜会：福岡にて2回、広島で1回開催

7月8日、12月2日(広島)、2023年3月10日

8. 共催・協賛及び後援行事

8.1 共催

(2022.4.1～2023.3.31 確定分)

行事名	開催日	開催場所	主催団体
第39回エアロゾル科学・技術研究討論会	2022.8.3 ～8.5	東京/慶應義塾大学	日本エアロゾル学会

8.2 協賛

行事名	開催日	開催場所	主催団体
第39回空気清浄とコンタミネーションコントロール研究大会	2022.4.12 ～4.13	東京/早稲田大学国際会議場	(公社)日本空気清浄協会
化学工学会「プラントエンジニアリングコース」「安全エンジニアリングコース」	2022.5月～ 2023.2月	東京・千葉・オンライン	(公社)化学工学会
みる・はかる・未来へつなぐ科学機器展 東海サイエンスパーク2022	2022.6.2 ～6.4	名古屋/名古屋国際会議場	東海科学機器協会 (一社)愛知県軽量連合会 (株)産業経済新聞社
FOOMA JAPAN 2022	2022.6.7 ～6.10	東京/東京ビッグサイト	(一社)日本食品機械工業会
色材セミナー	2022.6.8	オンライン開催	(一社)色材協会 関西支部
2022年度第1回講演会	2022.6.17	オンライン開催	(一社)日本塗装技術協会
色材分散講座	2022.7.6	オンライン開催	(一社)色材協会 関西支部
第19回技術講演会	2022.7.16～ 7.7	大阪/大阪府立国際会議場	新製剤技術とエンジニアリングを考える会
INTERMEASURE2022	2022.9.14 ～9.16	東京/東京ビッグサイト	(一社)日本計量機器工業連合会

粒子・流体プロセス技術コース 2022	2022.8.1 ～2023.2.28	各サテライト実習実施機関(九州工業大学、東京高専、新潟大学)	(公社)化学工学会粒子・流体プロセス部会流動層分科会
---------------------	------------------------	--------------------------------	----------------------------

9. 刊行物

9.1 「粉体技術」

編集 (一社)日本粉体工業技術協会 「粉体技術」編集委員会
 発行 (一社)日本粉体工業技術協会
 月刊誌 (1,500円・税別) (A4版 約90ページ 約1,500部/月)

9.2 日本粉体工業技術協会 事業案内(和文 2021年度版) A4版 12ページ
 編集/発行所:(一社)日本粉体工業技術協会
 発行:2022年8月頃(400部)

9.3 APPIE Annual Report 2021
 編集:(一社)日本粉体工業技術協会 海外交流委員会
 発行:2022年7月(A4版/9ページ/1,000部)

9.4 粉体技術総覧 2022/2023 A4版 約300ページ
 編集/発行所:一般社団法人日本粉体工業技術協会
 発行予定数:2022年12月(誌本 10,000部)

9.5 日本粉体工業技術協会開催の各種セミナー・講習会と教育部門の講座用テキスト
 編集/発行所(一社)日本粉体工業技術協会 教育部門他
 発行:各20～100部